

令和2年8月18日

法学研究科博士課程学生・法学研究科開講科目履修者の皆さんへ

神戸大学大学院法学研究科長

角 松 生 史

令和2年度後期法学研究科開講科目（法科大学院科目を除く）の授業実施について

神戸大学全学ウェブサイトにて、令和2年8月11日付で、「令和2年度後期の授業実施について」が、また8月12日付で学長メッセージが、それぞれ掲載されました（後掲）。これを受けて、法学研究科では、後期の授業が開始される10月1日から、「神戸大学の活動制限指針」のうち「授業（講義・演習・実習）」及び「学生の入構」が「レベル2」から「レベル1」に引き下げられた場合の法学研究科開講科目の授業の実施について検討しています。確定的な方針は、9月上旬に全学で最終的なレベル判断がされてから決定し、発表する予定ですが、学生の皆さんの受講準備のために、早めに見通しをお伝えしておいたほうがよいと考え、現時点での検討状況をお知らせします。

結論から申しますと、仮に全学の活動制限指針が「レベル1」に引き下げられたとしても、後期開講科目の対面授業の全面的な再開は難しく、引き続きほとんどの授業を遠隔授業を中心として実施せざるを得ないと考えています。このように考えるに至ったのは、学生の皆さんの健康を最優先に考え、感染防止に万全を期すために、十分な大きさの教室の確保、対面授業と遠隔授業が混在する場合の学内における遠隔授業の受講場所（アクセスポイント）の確保、食事場所の確保、4つの学部・研究科の学生が共用する六甲台第1キャンパスの動線の確保、通学に利用するバスの混雑などについて、満足のゆく解決が得られるまでは、対面授業を全面的に再開すべきでなく、残念ながら、後期開始時までには、これらの課題がすべて解決されることは、難しいと判断したからです。しかし、私たちも、教員が学生の反応を見ながら授業をし、学生同士が顔を突き合わせて議論を交わすことのできる場をととても大切に思っており、対面授業の再開に向けていろいろな可能性を探っています。対面授業を望む学生の皆さんの声も届いています。秋に向けて、先に見た課題を解決できるよう努め、対面での授業が少しでも増えるよう検討を重ねてまいります。

対面授業の全面的な再開を心待ちにしていた学生の皆さんには、厳しい見通しのお知らせとなってしまいましたが、どうかご理解いただければ幸いです。私たち教員は、遠隔授業が中心とならざるを得ない状況のもと、前期の経験と反省を踏まえ、引き続き、遠隔授業の質の向上に努めます。また、対面授業にはない遠隔授業の特徴を活かして、新しい双方向・多方向型授業の可能性ももちろん模索していきます。そして、学生の皆さんの安全と安心を確保しつつ、一部でも対面での授業ができるタイミング、方法等がないかを検討していきますので、後期においても、モチベーションを持続して授業に取り組まれることを期待します。

今後、新しいお知らせがある場合には、法学研究科ウェブサイト、同公式Twitter、うり

ぼーネットなどで随時告知しますので、主体的に情報収集を行ってください。また、他研究科の開講科目については、それぞれの研究科で方針が決定されますので、それぞれの研究科のウェブサイト等を参照してください。

お問い合わせは、法学研究科教務グループまでメールでお願いします。

law-kyomu-kenkyuka@office.kobe-u.ac.jp

【参考資料1】以下は、神戸大学全学ウェブサイト (https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/sub_student/2020_08_11_02.html) に掲載された文書の再掲です。

令和2年8月11日

学生のみなさんへ

令和2年度後期の授業実施について

神戸大学では、安全な学修環境を担保するとともに学習機会を確保するため、後期の授業が開始される10月1日から、「神戸大学の活動制限指針」のうち「授業（講義・演習・実習）」及び「学生の入構」を「レベル2」から「レベル1」に引き下げることが検討されています。「レベル1」になったとしても、遠隔授業を中心に開講しますが、「一部の演習、実験又は実習」に加え、一部の「講義」も対面による実施が可能となります。

最終的なレベル判断は、今般の新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえつつ、9月上旬に行う予定です。

活動制限レベルが「1」となった場合には、授業及び学生の入構については以下のとおりとしますので、学生のみなさんも、そのことを理解の上、準備くださるようお願いします。

1. 授業の実施について

遠隔授業を中心としつつ、一部の講義、演習、実験又は実習については十分な感染防止措置を講じた上で、対面により実施することがあります。

対面により実施する講義、演習、実験又は実習については、授業開講学部・研究科等で確認してください。

授業実施方法の詳細や成績評価方法についてはシラバスやBEEFで確認してください。

授業受講時には、手指を備え付けの消毒液で消毒し、マスクを着けてください。

体調不良の場合は登校しないでください。その際は、所属学部・研究科の教務担当係に連絡してください。

「神戸大学感冒様症状者にかかる届出制度」

また、持病等により対面での授業を避ける必要がある場合は所属学部・研究科の教務担当係に申し出てください。

2. 学生の入構について

感染拡大防止に配慮し、一部の授業の受講、研究活動、許可された一部の課外活動以外の入構を制限します。

3. 授業時間割

1コマ90分で実施します。

1	8:50～10:20
2	10:40～12:10
3	13:20～14:50
4	15:10～16:40
5	17:00～18:30
6	18:50～20:20

4. 履修登録等

引き続き遠隔授業を中心に開講するため、履修登録・抽選登録期間を以下のとおりとします。

授業前日には BEEF を確認できるよう、授業の2日前までには履修登録を行ってください。

履修登録期間

9月25日(金)～10月14日(水)17:00

※9月30日(水)13:00～18:00 は教務システムメンテナンスのためうりぼーネットにログインできません。

抽選登録期間

基礎教養科目・総合教養科目 ほか

第1次抽選 9月11日(金)9:00～14日(月)17:00

※詳細は以下で確認してください。

[国際教養教育院](#)

[全学共通授業科目の履修方法](#)

高度教養科目

第1次抽選 9月16日(水)17:00～18日(金)17:00

※詳細はうりぼーポータルで確認してください。

このほか専門科目の抽選登録が行われる場合があります。

学部生対象

(参考) 神戸大学の活動制限指針

レベル	授業（講義・演習・実習）	学生の入構
1 一部 制限	遠隔授業を中心に開講 ただし、講義、演習、実験又は実習の一部については、部局の判断に基づき、十分な感染防止措置を講じた上で、対面により実施することは可	感染拡大防止に配慮し、一部の授業の受講、研究活動、許可された一部の課外活動以外の入構を制限

(学務部学務課)

【参考資料2】以下は、神戸大学全学ウェブサイト (https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/sub_student/2020_08_12_02.html) に掲載された文書の再掲です。

学生の皆さんへ -第2クォーターを終えるにあたって-

2020年08月12日

神戸大学長

武田 廣

昨年11月に中国・武漢で発見された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬く間に世界中に拡がり、今もなお、感染者2000万人を超える勢いで拡大し続けています。

本学では、3月以来、卒業式、入学式をはじめあらゆる行事を中止にするとともに、すべての授業を遠隔授業に切り替え、さらに課外活動やキャンパスへの入構を禁止しました。第2クォーターに入り、一部の実験、実習等につき例外的に対面での実施を可とし、少しでも活動制限を緩和しましたが、講義については未だ遠隔授業のまま進められています。

いずれも学生の皆さんの健康と生命を守ることを第一に考えた措置ですが、その一方で、行き交う学生の姿を失ったキャンパスの情景を見るにつけ、胸が締め付けられる思いをしています。特に1年生の皆さんは、入学試験以来正式には一度も大学に足を踏み入れておらず、その不安や不満はいかばかりかとたいへん心配しています。

保護者の皆さんからも、小中高校では対面での授業を再開しているのに、なぜ大学だけが遠隔授業を続けるのか、というご質問（ご意見）をいただきました。理由はいくつかあります。大まかに言えば、大学は高校までと比べものにならないくらい多くのそして多様な学生が行き来する空間であり、1年生や2年生の皆さんが集う鶴甲第一キャンパスだけでも5000人が一堂に会することを考えると、対面授業を再開することは危険であると判断せざるを得ないのです。

実は、私自身、皆さんと同様の経験をしています。私が入学した50年ほど前の大学では、紛争の嵐が吹き荒れており、入学しても授業がほとんど行われず、大学も封鎖され、登校すらできない日が続いたのです。ですから、皆さんの無念な思い、焦燥感は、私には痛いほど理解できるのです。しかし、あえてお願いしたいのは、今のこの時期を、「我々は歴史を生きている」という覚悟で、自ら納得のいくように過ごしていただきたいということです。私も、ぼつかりとあいた時間を埋めるように、読みたいと思った本を手あたり次第読んだことを覚えています。しかし、それが、後年、様々な場面で非常に役立ちました。アイザック・ニュートンが、17世紀のロンドンでペストが流行した時、故郷に疎開した間に、微分積分学、分光学、そして万有引力の法則という三大業績を考えついたという話は、「ニュートンの創造的休暇」としてよく知られています。どうか今のこの時間を大切に、自身の中に潜む様々な能力や可能性を自ら引き出す努力をしていただきたいと願っています。

さて、大学としても、現在のこの状況を前に、漫然と手をこまねいているわけにはいきません。不安定な感染状況がしばらくは続くことをふまえてもなお、「アフターコロナ」の時代を創造していくべき皆さんの勉学環境を今のまま留めておくことが、最善の策だとは考えておりません。大学とは、教員と学生が共に切磋琢磨しながら真理を発見する場であり、そこでは、人と人が直接向き合い、自由闊達に議論を展開していくことが不可欠だと捉えているからです。とりわけ、「未知なる危機」と対峙していくために学問の発展が強く求められているこの状況下では、様々な手段を講じつつ、学生の皆さんが互いに知的好奇心を刺激し合える場を設けていくことが、大学の努めだと認識しています。秋に向け、少しでも対面での授業を増やしていけるよう検討を重ねていきます。

今週、第2クォーターが終わります。この4ヶ月余の間、常に感染防止を心がけ、慣れない授業形態に必死についてきていただいた皆さんに、心から感謝いたします。そして、最後になりますが、長い夏休みを前に、あらためてお願いがあります。言うまでもなく、感染の防止に向けた方策を引き続きとっていただきたいということです。夏休みだからといって、少しでも気を緩めれば、皆さん自身が感染するリスクが高まるだけでなく、周囲の方々の生活にも大きな影響が出かねません。しかも、皆さんの夏休み中の行動如何によって、第3クォーター以降の授業の在り方を左右する可能性もあります。その点を十分に自覚し、どうか節度ある行動をとっていただくことを、学長として呼びかけます。

そして、このように困難な状況の下にあっても、皆さんの一人ひとりが、健康であり続け、澆刺として学問を切り拓いていくことを強く期待しています。